

# 株 主 通 信

2014年3月期第1四半期決算報告

88号

AUTUMN 2013

Fit your needs, Fit your future

期待に応えて、未来を形に・・・

# SCREEN NOW

## 株主の皆さまへ



平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2014年3月期第1四半期累計期間(2013年4月1日～6月30日)における事業環境は、加速するスマートフォンやタブレット端末の普及によるパソコン需要の減少により、半導体メーカーの設備投資に対する慎重な姿勢が続きました。液晶パネル業界においても、パネル需給の悪化によりパネルメーカーが設備投資を抑制するなど事業環境は低迷しました。

このような状況の中、当社グループの売上高は593億円と前年同期に比べ73億円(11.0%)減少しました。利益面では、緊急対応策の継続により固定費削減に努めたものの、売上の減少の影響などにより、営業利益は22億円(前年同期比29.7%減)、経常利益は22億円(前年同期比32.8%減)となりました。また、四半期純利益は16億円(前年同期比17.3%減)となりました。

2014年3月期の連結業績予想に関しましては、第2四半期累計期間において、半導体機器事業の売上が2013年5月10日に公表しました前回予想を上回ると見込まれることから、売上高の予想数値を上方修正いたしました。一方、変動費率の改善が想定より遅れていることなどから、利益は前回予想どおりとしております。また、配当につきましては、1株当たり3円の期末配当予想に変更はございません。

当社グループは、今後も研究費・設備投資額の効果的活用や変動費の削減に取り組むとともに、新規事業の立ち上げと不採算事業の再生により事業構造の再構築を進めるなど、収益改善に向けた努力を続けてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今回は、2012年1月の発売以来、販売が好調な直接描画装置「Ledia(レディア)シリーズ」をご紹介します。

## ●直接描画装置とは

直接描画装置は、プリント基板やタッチパネルの生産において、回路パターンを高精細に直接描画(露光)する装置です。フィルムまたはガラス製の「フォトマスク」と呼ばれるパターン原版を通して光を当て、基板に回路を転写する従来の方式と異なり、レーザーで回路パターンを直接描画(露光)します。そのため、フォトマスク関連の工程を省略でき、納期の短縮やコストの大幅な削減ができます。また、スマートフォンやタブレット端末の基板に求められる高精度な回路にも適しており、従来方式から、このような特長を持つ直接描画装置へのシフトが急速に進んでいます。

## ●当社製品の強み

当社の「Lediaシリーズ」は、業界で初めて複数波長の高輝度紫外線LEDを光源に採用し、LEDの特長である長寿命・低消費電力に加え、波長の合成比率を調整することでさまざまな感光材に幅広く対応できます。そのため、狭額縁化が進むタッチパネルの生産にも用いられるなど、利用用途が広がっています。

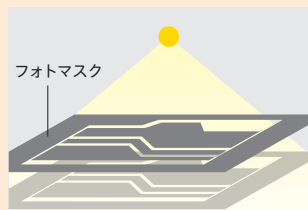


「Ledia 5F」

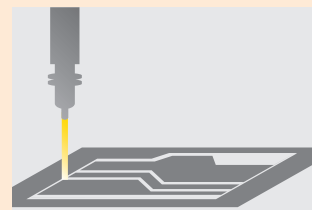
## ●今後の展開

2013年6月、既存の最小線幅30マイクロメートルの直接描画装置「Ledia 5S」に加えて、最小線幅15マイクロメートルの高精細モデル「Ledia 5F」をラインアップしました。当社は、お客さまの多様なご要望にお応えし、直接描画装置分野におけるトップシェアの獲得を目指します。

### 従来の露光方法

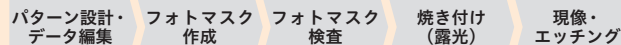


### 直接描画法

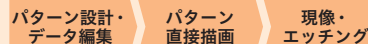


### パターン形成工程の概略

#### 従来の露光方法



#### 直接描画法



## 個人投資家さま向け会社説明会開催のご報告

2013年7月5日に大和証券(株)京都支店で会社説明会を開催し、85名のご参加をいただきました。当日は、取締役の垣内永次が、当社の事業内容や業績、今後の展望についてご説明しました。また、多数のご質問に回答させていただきました。当社では今後も個人投資家の皆さまを対象にした説明会を継続的に開催してまいります。今後の予定につきましては、裏面をご覧ください。



説明会の様子

## セグメント別業績(第1四半期:2013年4月1日~6月30日)

### 半導体機器事業

売上高 433億円(前年同期比 16.1%減)  
営業利益 21億円(前年同期比 42.3%減)

- スマートフォンやタブレット端末の普及により、ファンドリーの設備投資は増加しましたが、パソコン需要の減少が顕著となる中、ロジックメーカーの設備投資が大幅に減少したことから、売上は前年同期に比べ減少しました。
- 利益面では、変動費および固定費の削減を進めましたが、売上の減少により営業利益が減少しました。

### 今後の見通しと取り組み

- パソコン需要の低迷によりロジックメーカーの投資抑制の動きが続くと予想されますが、スマートフォンやタブレット端末の需要増加を背景にモバイル向けメモリーの投資再開が期待されるとともに、一部ファンドリーの設備投資は堅調に推移すると見込まれます。
- 上期(第2四半期累計)においては、製品構成の変化の影響などにより、変動費率の改善は想定より遅れていますが、下期においては想定どおり収益率が改善する見込みです。

### FPD機器事業

売上高 41億円(前年同期比 14.8%減)  
営業利益 1億円(前年同期比 56.3%減)

- 高精細液晶パネル向け中小型製造装置の国内向けの売上は増加しましたが、海外向けの売上が減少したことから、前年同期に比べ売上が減少しました。
- 利益面では、主に売上の減少により、営業利益が減少しました。

### 今後の見通しと取り組み

- 通期の売上は、前期(2013年3月期)の中国向け大型案件の獲得などによる受注残高の状況から、前期に比べ大幅に増加する見込みです。
- 受注から売上計上までのリードタイムが長いことから、現在は既に来期の売上確保に向けた商談の受注獲得を目指しています。また、海外調達の拡大などによるコスト削減にも注力しています。

### メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業

売上高 116億円(前年同期比 16.9%増)  
営業利益 4億円(前年同期比は3億円の営業損失)

- 印刷関連機器は、為替が円安で推移する中、CTP装置の売上は減少しましたが、POD装置の売上が増加し、前年同期に比べ売上が増加しました。
- プリント基板関連機器は、直接描画装置の売上が増加したことにより前年同期に比べ売上が増加しました。
- 売上の増加により、営業利益を確保しました。

### 今後の見通しと取り組み

- 印刷関連機器では、欧州の景気低迷や新興国の成長鈍化の影響が懸念されますが、POD装置において、需要が堅調なパッケージ(包装)分野への展開を視野に、ラベルプリンターを市場投入します。
- プリント基板関連機器では、高精細モデルの投入により、直接描画装置の販売拡大を図ります。

### 用語解説

**狭額縁化:**液晶画面の周辺縁の幅を狭くすること。同じ画面サイズのスマートフォンやタブレット端末でも、その周辺縁が狭いと本体は小型化できる。

**タッチパネル:**指やペンで画面に直接触れることにより機器を操作するための入力装置。

**ファンドリー:**半導体の受託生産を行う企業。

**ロジック:**半導体の一種で、演算や命令などを行う。

**メモリー:**半導体の一種で、データを記憶する。

**変動費:**生産量や販売数量の増減に応じて変動する費用のこと。原材料費や荷造運賃費、外注費など。

**固定費:**生産量や販売数量の変化に関係なく、一定期間に一定額発生する費用のこと。人件費、減価償却費、研究開発費など。

**CTP:**Computer to Plateの略。印刷するデータをコンピューターから印刷用プレートに出力し、印刷版を作成する方法。

**POD:**Print on Demandの略。必要なときに必要な部数を印刷すること。

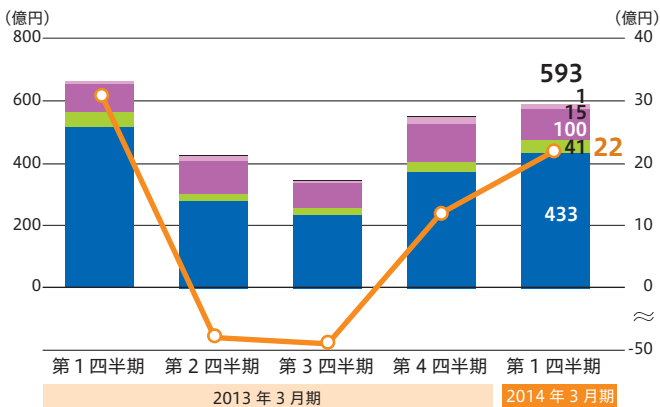
## 2014年3月期連結経営成績

(単位: 億円未満切捨)

	第1四半期 2013年4月1日から 2013年6月30日まで	前年同期 2012年4月1日から 2012年6月30日まで
売上高	593	666
営業利益	22	31
経常利益	22	33
四半期純利益	16	20

## 売上高・営業損益

■ 半導体機器事業 ■ FPD機器事業 ■ メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業  
 (■ 印刷関連機器 ■ プリント基板関連機器) ■ その他 ○ 営業損益[右目盛]



## 2014年3月期連結業績予想

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(四半期) 純利益
第2四半期 累計	1,090	25	21	15
通期	2,110	65	55	40

2014年3月期の期末配当につきましては、1株当たり3円を予定しております。

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表記しております。

### 収益認識基準の変更について

2014年3月期より、半導体機器事業およびFPD機器事業の装置販売について、従来の出荷基準から据付完了基準に、収益を認識する方法を変更しております。この変更に伴い、2013年3月期については遡及適用後の数値を記載しております。

## 個人投資家さま向け会社説明会のご案内

当社は、個人投資家さま向け会社説明会を以下のとおり開催いたします。参加をご希望される方は、各証券会社のウェブサイトから、またはお電話でお申し込みください。

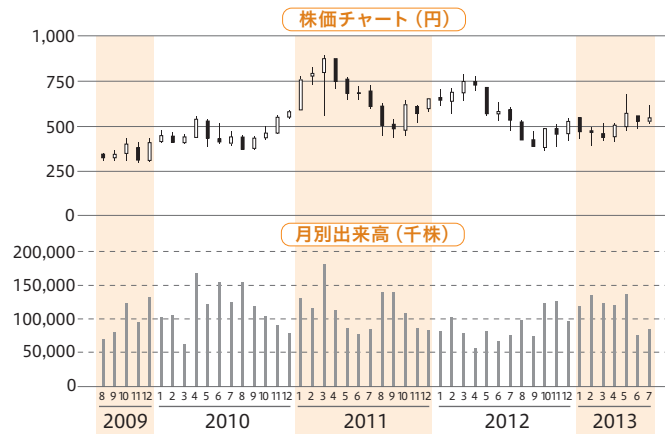
日時: 2013年9月26日(木) 開始13:30 場所: SMBC日興証券 西宮支店  
<http://www.smbcnikko.co.jp/cgi-bin/service/office/info.cgi?cd=283>  
 電話: 0798-66-2091(平日8:30~17:30)

日時: 2013年9月26日(木) 開始15:00 場所: SMBC日興証券 芦屋支店  
<http://www.smbcnikko.co.jp/cgi-bin/service/office/info.cgi?cd=287>  
 電話: 0797-35-6031(平日8:30~17:30)

日時: 2013年10月9日(水) 開始13:30 場所: 大和証券 渋谷支店  
 電話: 03-3463-9211(平日8:00~18:00)

日時: 2013年10月10日(木) 開始15:00  
 場所: 三菱UFJモルガン・スタンレー証券 堺東支店  
 電話: 072-221-7131(平日9:00~17:00)

## 株価および出来高の推移



## 大日本スクリーン製造株式会社

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目天神北町1-1 電話075(414)7111  
 ホームページアドレス: [www.screen.co.jp](http://www.screen.co.jp) 証券コード7735

SCREEN NOW Vol.88 発行日: 2013年9月11日(発行は3月、6月、9月、12月) 発行: 広報・IR室  
 「SCREEN NOW」(株主通信)は、当社のフォント「ヒラギノ書体」を使用しております。



見やすいユニバーサルデザイン  
 フォントを採用しています。